



2004年8月2日
全損保日動外勤支部
東北分会教宣ニュース
第1号

労働組合の役割をあらためて発揮しよう

プロ野球合併問題。長嶋さんが病に倒れ、願いはかなわなかったにせよ、アテネ五輪のために懸命にリハビリを続けている最中になぜ。中には、プロ野球そのものを自分のものだと思っているオーナーもいるんだそうです。いま我々が置かれている環境と似ています。

会社は元嘱託社員が起こした刑事事件でここぞとばかり、全損保日動外勤支部の存在がないうちに制度を変え、超短期的に終息させようとしています。発覚の時期や経緯そしてタイミングを考えると、いろんなことを想像してしまいます。

この事件では、会社が全責任を負わなければなりません。そして数字が大きいが故に同情もありますが、本人自身が罪の償いをしなければなりません。

今回の事件で、お客様はもちろん国民が生損保に求める姿を、まったく肌で感じようとしなかった日動経営の姿勢が露呈し、早急の行動変革が強く求められる結果となりました。ながきに渡り、どっぷりとぬるま湯に浸かっていたんですね。同時に経営監視機能をもつ我々労働組合に、今一度厳しく経営と対峙すべく社会的責務を教えてくださいました。

会社は、顧客第一主義という目標を掲げています。エンドユーザーと接したことがない者故の発想です。扱者にとっては根底にある礎であり、今さらという感が拭えません。しかし今からでも遅くはない。社長会長以下、全サラリーマン役員、部支店長等、1日1時間、全営業日に飛込みリサーチの励行および全従業員への日報を求めるものであります。

最後に2001年8月朝日闘争において全面勝利した、「時間内組合活動について支配介入をしてはならない。」という判決を私たちの勇気に替え、皆さんといっしょにがんばっていきましょう。